

秋田県護國神社 参拝の栞



1,300年の歴史の丘

緑の広々とした散策の丘

港の見える爽やかな風薫る

季節の花にいろどられる丘

そして、心がなごみ清められる神の坐す丘

高清水丘・秋田城跡鎮座

秋田市寺内大畑5-3

電話 018-845-0337

FAX 018-845-3341

mail to : omo@muf.biglobe.ne.jp

由緒略記

明治元年10月、秋田藩主佐竹義堯侯によって高清水丘に工事が起こされ、太政官より金壹千両下付、明治2年8月創建成り招魂社と称し、戊辰役の「みたま」を祀られたことに始まり、以来秋田県出身戦没者の「みたま」を合祀鎮齋す。

明治26年12月、看守の失火により焼失、同31年まで仮殿にて祭事を行なう。

明治32年、秋田市佐竹城跡（現在の千秋公園本丸）に政府より再築補助費が下付され建築し、官祭秋田招魂社と称した。

昭和14年3月秋田県護國神社と改称した。（内務大臣指定）

昭和15年、旧社地（現在地）この高清水丘に本殿流造の壮麗な社殿を造営した。

昭和22年10月配祀神として生成化育、修理固成の神である「伊邪那岐神、伊邪那美神」を鎮祀し、同年11月「高清水宮」と改称登記した。

昭和28年再び秋田県護國神社と復名した。

昭和43年御鎮座百年記念奉祝大祭を齋行した。

平成2年御遷座五十年記念事業を実施し、奉祝大祭を齋行する予定であったが、7月9日未明心無き者の爆破を受け全焼した。

平成3年5月21日地鎮祭を執り行い、平成4年9月竣工し、10月1日本殿正遷座祭齋行、10月14・15日竣工記念奉祝大祭を齋行し、協賛者の参拝を迎えて、第6日祭まで滞り無く御奉仕を終えた。

昭和44年8月26日、昭和天皇、皇太后陛下、同45年10月26日今上天皇皇后陛下の御親拝があり、常陸宮様始め各宮様方の御参拝があり、夫々幣帛料を賜った。

秋田城の歴史

『出羽柵遷置於秋田村高清水岡』

秋田城は、天平5年（733）12月の記事によって歴史上に登場する。最上川下流域の荘内地方から出羽国北方高清水の地に北進した出羽柵は、やがて天平宝字4年（760）前後に秋田城と改称され、東北日本海側における行政の中心的役割を果たすことになる。

天長7年（830）の大地震によって秋田城の官舎および四天王寺が大被害を被ることはあったが、しばらくの間は、比較的平穏な情勢が続いたものと考えられる。ところが元慶2年（878）夷俘による城襲撃事件が持ち上がる。一時は秋田城占拠という最悪の事態にまでおちいるが、この乱を重視した中央政府は、権守藤原保則を登用、小野春風を鎮守將軍として派遣、およそ6カ月におよんだ乱の平定に成功した。

天慶2年（939）にも蝦夷による同様な反乱が数カ月続くが、しかしこの乱を期に秋田城と蝦夷との攻防は、史上から次第に遠ざかって行った。古代律令制下の秋田城は、蝦夷対行政側の攻防で終始するが、その名称は規模、性格は不明ながら中世室町時代初期まで継続的に歴史上にみる事ができる。

規模と調査概要

秋田城は沢の入り組んだ丘陵上に築城され、外郭は、粘土を積上げた築地塀で構成されその規模は東西約550m、南北約550m程である。城の中心部は護國神社の南側広場であり、昭和59年の発掘調査により、正殿跡を含む政庁城が確認された。

古代秋田城跡の史跡公園化整備は昭和63年より実施に移され、朱塗りの東門が復原されており、政庁部分は正殿等の平面復原が計画されている。